

いとすぎの丘



日本赤十字豊田看護大学
Japanese Red Cross Toyota College of Nursing

Vol.3



Campus Life 2005 いとすぎ祭
防犯講話を聞いて

武人、雅人、佳人を追想する（後編）

学長 村地 俊二

Academic Library 図書館係長 中尾 明子

研究の窓 教授 杉浦美佐子

Topics

FD事業について 学部長 小西美智子

タイの看護系大学教員との交流 講師 鈴木 千智

パキスタンにおける赤十字の地震被災者救援活動 講師 河合 利修



日本赤十字愛知短期大学時代の思い出 教授 羽場 俊秀

専攻科卒業を迎えて 専攻科第8期生 板倉 佳里

看護学科卒業を迎えて 専攻科第15期生 高瀬 紀子

Information

■ 入試情報

■ 公開講座

常設展示室

本学には、施設の見学などで来訪される方々に、赤十字の理念や活動を知っていただくための展示室があります。



赤十字誕生のきっかけとなったアンリ・デュナンの「ソルフェリーノの思い出」や、日本赤十字社の礎となった5人のパネル等が展示されています。

また、2005年の国際博覧会出展の国際赤十字・赤新月パビリオンで使用されたエッジングパネル



と併せて、赤十字の始まりを紹介するCGアニメも上映しています。473,512人を動員した人気パビリオンの展示物を楽しんでください。



いとすぎ祭を終えて

いとすぎ祭実行委員長
看護学部3年

河合 諒子

8・9月の実習を終え、10月に入り、いとすぎ祭の準備が始まりました。開催日は11月12日。準備期間は約1ヶ月。企画・広報・会計の仕事内容・やり方など、把握していないうちに、本格的な準備が始まりました。通常授業が展開されている中での準備は、想像以上に大変なものでした。また、今年度は短期大学から大学への移行期ということもあり、昨年との変更点も出てきました。準備が進むにつれ様々な問題が出てきて、振り出しに戻りには進みませんでした。しかし、そんな中でも、問題が出てきたということは、話が確実に進み出した証拠、と自分たちを励まし、また、お疲れ様！いつもありがとう！頑張ろうね！という声に励まされ、少しずつ準備は進んでいきました。

前日、会場やみんなの準備が着々と進む中で、私は、何か不備はないか、本当に無事開会することができるのか、という不安でいっぱいでした。しかし、こまめにみんなで頑張ってきたんだ、大丈夫！とこんな気持ちで当日を迎えることができました。

当日、天気を見てほっとしました。雨を心配していましたが、晴天。気持ちを引き締め、準備に向かいました。多少の問題は出てきたものの、いとすぎ祭は無事動き出しました。オープニングを終え、200人以上の一般のお客様も来場され、いとすぎ祭は大いに盛り上がりしました。新しい試みのステージや献血、スライド上映会も、時間帯に差はあったものの、とても盛り上がり、そして、その他の模擬店・健康チェック・炊き出し全て無事

終了することができました。

手探りで

いとすぎ祭

でしたが、「第2回いとすぎ祭」は無事終了・成功しました。今回のいとすぎ祭は、新たな企画を実施したこともあり、多数利点や反省すべき点は出てきましたが、昨年度よりもまた盛大に行われました。

「第2回」と、歴史の浅いいとすぎ祭です。今後ともいろいろなことに挑戦し、日本赤十字豊田看護大学らしいものがある、学園祭をつくって欲しいと思います。今回、私はいとすぎ祭実行委員長を務めることで、本当に多くのことを学びました。準備から終了の中で、支えになっていたのは、仲間との存在でした。励ましあえる仲間、アドバイスしあえる仲間、一緒にいとすぎ祭をつくり、参加する仲間、仲間がいたからこそ、実行委員長を務めることができたと思います。

いとすぎ祭で、全員が一つになった瞬間を感じた人も多いと思います。これから勉強や実習、試験、就職など、いろいろなことがあります。容易じゃないこともたくさんあるでしょう。しかし、みんなで、一つになつて、助け合っていけば、きつと乗り越えていけると思っています。仲間を大切に、みんなで乗り越えていきたいと思います。



みなさん、本当にありがとうございました。そして、事務の方々、諸先生方、関係者の方々の丁寧なご指導に、心から感謝しています。本当にありがとうございました。

初めての学祭を体験して

看護学部2年

日置

恵

日本赤十字豊田看護大学に入学してからの初めての学祭は分からないこと、知らないことばかりでとても勉強になりました。

私は高校生時も学祭で模擬店の実行委員を経験したことがあり、日本赤十字豊田看護大学の学祭はどのようなものなのだろう、何か大学生らしいことをしたいかと思う、いとすぎ祭の実行委員に立候補しました。実行委員の中では、1年生をまとめ、連絡事項を伝える副委員長を務めました。

その仕事として、さまざまな事を行いました。カウントダウンカレンダーの形は赤十字といとすぎ祭ということを意識して、ハート型といとすぎのツリー型にして、よく目に付くエントランスと食堂に飾り、係を決めて毎日一枚ずつめくるようにしました。また、出し物では炊き出しを担当し、赤十字支部の方やボランティアの方と連絡をとり、二ヶ月ほど前から細かい打ち合わせをし、いろいろなことをレクチャーしてもらいました。学内での炊き出しボランティアの募集、タイムテーブルの作成、看板作り、ごはんの味付けなどを自分たちで決めました。特に苦労したのは検便で、容器が足りなかったり、名簿が集まらなかったり、提出の仕方がよく分からない人、提出日を把握していても提出できない人がいて、何度か大学と保健所を往復しました。来年はそこを改善できればと思います。

私は模擬店メンバーとしても学校祭に参加し、チヂミの店を出店しました。メンバーみんなが今までチヂミを作った経験がなく、何度か試食会をし、やつとチヂミの生地とタレを作ることができました。

た。チヂミのトッピングもメンバーで考え、ツナ、豚、明太子の3種類の味を一皿に盛り付け販売することが決定しました。自分たちで出品物、服装、看板、レインタル物品、持ち寄るものを考えるのはとても楽しく、うまく決まらない箇所もありましたが、いとすぎ祭が近づくとつれ、だんだんと形になってきました。

またACサークルのメンバーとしてファッションショーに出演しました。限られた時間の中で準備、リハーサルでしたがファッションショーは大成功でした。タキシード姿の石黒先生と並んでステージの上を歩いた時はとても気持ちがよかったです。初めて作った特設ステージも低コストながら立派な出来でした。女学生が多い我が校の特色を生かしたとてもよい企画だったと思います。

心配していた閉会式後の片付けも、先輩の話によればみんなが協力して片付けてくれたおかげで例年に比べて早く片付けを完了することができました。

今回の学祭で感じた改善点はステージ・模擬店の配置と自治会の十分な説明と検便の回収法です。あと、献血をしようにとしない悔しい思いをしたので、来年はもっと健康になって再チャレンジしたいです。

初めての学祭は分からないことだらけで、先輩、先生、事務の方、赤十字支部の方、ボランティアの方に聞いてばかりでした。いつも適切なアドバイスをしていただき本当に助かりました。困った時に助けてくれ





第二回いとすぎ祭を終えて

看護学部3年 河合 瑠美

平成17年11月12日に、第二回いとすぎ祭が開催されました。昨年よりも規模を広げ盛大にしようと、委員会一同頑張ってきました。短い期間の中で、よりよいものを作ろうと試行錯誤し、準備を進めていきました。

私は、企画の担当として、いとすぎ祭の内容やプログラム等を考えていきました。今年は盛大にしようというところから、ステージの設置を試みましたが、ステージの設置は今年が初めてだったので最初は不安もありましたが、業者の方や協力してくださった皆さんのおかげで設置することができました。ステージのプログラムでは、出演も多くの人が希望してくれ、そして、より盛り上げるために、万博などにも出演した有名な松平和太鼓の皆さんにも出演をお願いしました。

企画は、各自で担当をもっており、自分の受け持っていることに責任をもつて仕事を進めていきました。昨年とは異なり、変更点が多いなど困難もありましたが、ひとつひとつ解決していき、開催へとつながることができました。模擬店の出店希望も昨年をかなり上回り、どの店舗も準備に活気づいていました。学祭の前日に雨が降り天気が心配でしたが、当日は見事なほどの晴天に恵まれました。準備は着々と進んでいき、開会式とともに始まりました。私は、模擬店の皆の活気に満ちた様子を見て、本当に嬉しくなりました。



どの店舗も、自分たちで作ったカラフルな看板やメニュー、Tシャツが個性的で、

一生懸命作ったり売り込みをしたりしていました。お客さんも時間とともに増えていき、より模擬店会場に活気が出ていきました。ステージは、プログラムどおりに進んでいき、ゲストとして出演していただいた松平和太鼓は、その迫力にも圧倒されました。太鼓の音が学校中に響き渡り、その演技に釘付けとなりました。他にもピアノ演奏、ダンス・歌、フッシュョンショーなど、多くの出演がありとても盛り上がりしました。

無事学祭が開催できたことはもちろんですが、何よりも皆が楽しんでいる様子を見ることが出来たことが本当に嬉しかったです。私は様子を見るために色々な場所を見回っていたのですが、行く先々で皆の声かけや、お疲れ様と言う言葉を聞くたびに委員をやった良かったと思えました。あつという間に時間は過ぎ、閉会式となりました。今思い返してみると、準備期間は短く毎日が多忙が続きましたが、委員をやった良かったという達成感と協力してくださった皆さんへの感謝の気持ちでいっぱいです。学祭が成功することができたのは、多くの人の協力があってからこそだと思います。皆の励みや応援、協力があつたからやり遂げることが出来たのだと改めて実感しました。委員をやったことは、私自身にとっても非常に良い経験となりました。今年の学祭が来年へとつながり、さらに盛り上がる「第三回いとすぎ祭」となってくれることを期待しています。

防犯講話を聞いて

自治会長

看護学部3年 岡部 美貴

平成17年12月21日の防犯講話において、豊田警察署の生活安全課生活安全係の葛蒲谷警部補から防犯についてのビデオ3本と防犯についての貴重なお話を聞かせていただきました。その中で、自分には関係ないし他人事のように思わず、被害にあって可能性もあること、また、防犯というのは人任せではなく、私たちにもしくはなくてはならないことがあると理解できました。

豊田市は、空き巣、自動車盗、オートバイ盗、車上ねらい、自販機ねらい、強制わいせつの被害が平成17年1月～11月にかけて愛知県下ワースト1だそうです。統計的に見ていくと、刑法犯認知件数は、凶悪犯では16年度40件に対し、昨年では25件と、15件減少しました。窃盗犯では、一昨年7508件、昨年は7955件と447件増加しています。これより、窃盗事件は非常に多ことがわかります。

街頭犯罪別認知件数を見ると、空き巣の被害は16年度491件に対し、昨年では510件と19件増加しています。自動車窃盗では、602件から458件と144件減少しました。オートバイ窃盗も、719件から611件に減りました。車上狙いは1383件から1307件と76件減ったものの、県下ワースト1です。自販機ねらいは16年度706件、昨年は930件と224件も増加しています。強制わいせつは23件から39件になり、16件の増加があります。空き巣に入られないようにするには、入られにくい家にする必要があると考えます。特別な器具を取り付けなくても、施錠をしっかりとする、窓は開けっ放しにしない、

犯罪者が潜めるような場所を作らないという基本的なことをするだけでも、被害は減るそうです。家を何日間も空けるときは、新聞受けに新聞がたくさんあることはしないよう、一目見て留守にしているとわかるようにしないことで空き巣予防になります。車上ねらいにおいては、鍵をかけたまま車を離れないことが大切です。面倒であってもその少しの行動が被害を受けないひとつの手になります。被害にあつてからでは遅いので、後悔しないように、車から離れたときは必ず施錠するようにします。

自転車は自動車と違い、盗まれやすいと聞きます。簡単に乗ることができ、鍵をかけてない自転車も多いからです。犯罪者にとっては、好都合な状態だと思います。自転車から離れるときは忘れずに二重施錠したり、防犯登録をするのも良い予防策だそうです。

近年問題となっている振り込め詐欺においては、身に覚えの無い請求が来ても相手にしないことが大切だそうです。一度振り込んでしまうと何度も狙われる可能性があるのです。知らない請求は相手にせず、何かあれば警察に申し出るようにします。

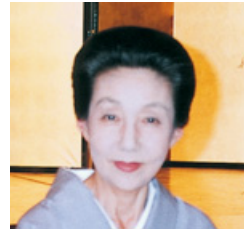
被害にあつて悲しむのは自分です。文頭でも述べたように、自分には関係ないものと他人事のように思わず、自分も被害にあう可能性があるかもしれないと考え、鍵をかけ忘れない、暗い道は避けて通るなど、基本的なことを行いたいのです。犯罪者に狙われにくいようにすることで、自然と犯罪者の数も減ってくると思います。一人ひとりの心がけによって犯罪の少ない地域にするには、普段の心がけが大切です。これを期に防犯意識を高めたいと思いました。

武人、雅人、佳人 を追想する

学長 村地 俊二

後編

15世鵬雲斎宗室夫妻



裏千家11世々々
斎より4世下り14
世淡々斎(無限斎)
が家元を継承し、
大正6年仙台藩家
臣伊藤家の嘉代子
と結婚し、大正12
年(1923)、長男政興が出生した。政
興が後、15世鵬雲斎宗室として近代茶道
の興隆に貢献することになる。そして昭
和30年1月、塚本登美子との婚儀が文豪
吉川英治夫妻媒酌の下に行われた。

裏千家15世家元夫人登美子は、私自身
と祖父母を同じくし、彼女の母親(塚本
三鶴)は私の父の姉に当たるので従兄妹
の關係にあり、その郷里、滋賀県の実家
は隣家同士である。

年齢に9歳の開きがあり、年少少女時
代、高校、大学時代は、東京と滋賀県あ
るいは名古屋と離れ離れに育ってあまり
交渉はなかった。

しかし戦後、医師となった私は、東京
飯田橋の総合病院整形外科に約9年間勤
めたが、その頃、伯母の住む文京区関口
台町の塚本家には時々訪れたし、伯母が
大腿骨頸部骨折により私の病院に入院し
た際もその主治医をつとめ無事全治に導
いたときは心から安堵した。

その家は江戸川橋から椿山荘の方へ向
かう坂道の中腹にある静寂な屋敷町で、

伯母は元氣なときはいつも種々の書物に
読み耽っていた。本棚には新旧の文学、
芸術、修養に関する書物がつまっていた
が、伯母と私に共通の愛読書のことや、
特に好きな大相撲の関取のことなど話し
あった。

その頃、私が文豪、武者小路実篤先生
の足関節捻挫の治療の往診に通った東京
仙川のお宅で、武者小路先生と一緒に大
相撲のテレビを見た話をした時、伯母は
本当に羨ましそうに実篤先生の挙措動作
を事こまかに聞き出すのであった。伯母
は当時、横綱柏戸を大そう鼻唄にしてい
たが、先生の鼻唄力士は誰なのかという
ことまでくどく聞き出すのであった。

三女登美子は、母に似て白く、秀麗で
成長とともに輝きを増し、身内ながら誠
に気品高く玲瓏たる麗女だと私も誇りと
讃仰に近い思いで眺めていた。高校卒業
後も好きなフランス語を勉強に市ヶ谷の
日佛学院とかアテネフランセなどへ熱心
に通っていた。後年彼女が得意の英・仏
語を駆使して国際文化交流や裏千家の海
外発展に貢献したといわれるその基礎は
もうこの頃に形成されていたのである。

その彼女に何時の頃からか京都の茶道
裏千家の若宗匠との縁談が持ち上がった
時、部外者ではあったが私はあまり賛成
ではなかった。異常な格式、因習、戒律
高く厳しい茶道宗家に嫁し、当時社中3
00万と称された茶道最大の流派の家元
夫人の激務と重圧に、元来蒲柳の体質を
呈し一時は療養もした事のある彼女はお
そらく押し潰されるであろうことを深く
懸念したからである。

しかし若宗匠の強い愛情とそれを受容
した東女の勇氣と夢は、遂に稀にみる見

事なカップルを形成し、多くの懸念と心
配を吹き払って後年の裏千家第15世家元
夫妻の活躍を現出したのである。

鵬雲斎宗室は茶道の家元として国の内
外にその重鎮ぶりを示したのみならず、
国際ロータリークラブの日本幹事やガバ
ナーをつとめ、京都の有数の国際文化人
としても大活躍を続けた。私もロータリ
ー会員であった関係から、愛知や東海の
ロータリー大会に彼がガバナーとして語
った印象的な熱弁も聞いた。わが国の代
表的国際人としてもその名声は高かった。
後年(平成9年)秋には文化勲章受章と
いう最高の栄に浴した。

毎年正月の裏千家初釜式には、私も招
かれ度々出席したが、その初釜式は京都
で1週間、東京で5日間、連日国の内外
の招待者を迎えての大儀式で家元以下今
日庵関係者の苦勞は並大抵ではなかった
と思われる。

その中の「祝膳」と称される食事の接
待の総帥は家元夫人で、彼女が私の膳の
前に廻ってきた時には、暫しの久瀧を叙
し近況を二言三言言い交わすのであった
が、私は毎年彼女との瞬時の邂逅を楽し
みにしていた。

しかるに平成10年の初釜式に初めて彼
女の姿は見られず、客はいずれもその不
在を訝がり、淋しがり、言い知れぬ空虚
感に捉われたが、この時すでに彼女は重
い病の療養中だったのである。

運命は誠に残酷にして、平成11年3月
6日、家元夫人登美子はあまりにも呆氣
なく、忽然とこの世を去った。骨折に倒
れるまで病を隠して茶道の公式行事を夫
妻協力して連日強行していたとは余りに
も痛ましい事であった。

京都の今日庵での密葬に参列した私は、
彼女の柔和な微笑を湛えた秀麗の遺影を
見て心から哀悼に胸迫りつつその冥福を
祈った。そして棺に眠る天女の如く鵬た
けた神々しいまでのかばせに思わず慟
哭した。

最愛の伴侶を失った宗家家元は、傷心
の中にも連日の公式行事を単身続行して
いたが、3年半ばを過ぎて遂に隠退を決
意した。

平成14年(2002)、12月22日は、裏
千家家元継承宣誓式が京都今日庵におい
て、表千家、武者小路千家各家元立会い
の下に挙行され、15世家元の長男千宗之
が第16世家元を襲名、坐忘斎宗室として
裏千家総帥の役に就いた。鵬雲斎宗室は
家元大宗匠として隠居役を勤めることに
なり、時代は新しく移り変わることにな
った。

新宗匠は、両親の学才、文才、芸才を
受継ぎ茶道発展のため活躍中であるが、
とくに「母の居た場所」という著書は亡
き賢母への追慕と哀愁の切々たる想いを
綴る名著として今に評価は高い。今後
の健闘を祈っている。

〈文献〉

- 1 玄々斎宗家と岡崎…岡崎市竜美会館
管理協会 昭和62年3月
- 2 おおとりは空に…津本陽 講談社文
庫 平成16年5月
- 3 母の居た場所…千宗之 中央公論社
平成12年5月
- 4 天女の昇天…村地俊二 愛知の国保
485 14-15 平成12年5月
- 5 二つの守綱寺…村地俊二 愛知の国
保 521 10-12 平成15年5月

Academic Library

図書館係長 中尾 明子

シーラは立ったまま、オーバーオール
の肩紐をいじくって
いた。「もう一度あの
本を読んでくれる？」
「どの本？」
「キツネを飼いな
らした男の子のお話」
私はにっこりした。
「いいわよ。読みま
しょう」

右はノンフィクション★「シーラとい
う子」の中で、被虐待児シーラと特
別学級の教師トリイが対立の後、トリ
イとシーラとの会話である。会話の中
の「キツネを飼いなした男の子の話」
とはサン・テグジュペリ作「星の王子
さま」のことである。★飼いなす
とは「仲良くなる」即ち「絆を造る」
ことであり、絆を結んだ相手に対し自
分は責任あるものとなる。この「飼い
ならす」という言葉は二人の間で壊れ
がちな信頼関係を確認するために、シ
ーラとの会話の中で繰り返し使われ、
まるで「星の王子さま」がサブテキス
トのように現れるのである。

さて、昨年は「星の王子さま」の新
訳が立て続けに出版された。岩波書店
が独占的に持っていた翻訳出版権が切

れたためである。本学図書館でも岩波
書店版のほか、「小さな王子さま」(山
崎庸一郎訳、みすず書房)「星の王子さ
ま」(池沢夏樹訳、集英社)「新訳星の
王子さま」(倉橋由美子訳、宝島社)
「星の王子さま」(三野博司訳、論創社)
を所蔵している。子供時代に読んだ方
も今一度、読み比べてみてはいかがだ
ろう。

また、「森岡正芳…聖なる体験を生と
つなぐ」星の王子さまにキツネが語つ
たこと。現代のエスプリ435、二〇
〇三、一七三―一八〇頁「菅佐和子…
臨床家のための一冊『永遠の少年―星
の王子さまの深層』。臨床心理学3(6)
二〇〇三、九〇三―九一六頁」甲田純生…
「星の王子さま」を哲学する。ミネルヴ
ア書房」も「星の王子さま」の読書を
深めてくれる。

★トリイ・E・ヘイデン…シーラという子
―虐待されたある少女の物語。一八八頁、
早川書房、一九九六

★「シーラという子」の訳者は「星の王子
さま」(岩波書店)内藤濯(あろう)氏訳
を引用している。フランス語動詞appri-
voiserの訳については「手なずける」を
とる新訳もある。(参照:片木智年「星の
王子さま☆学」三〇―三二頁、慶應義塾
出版会、二〇〇五)

研究の窓

教授 杉浦 美佐子



杉浦美佐子です。
看護基礎教育は名古屋
屋赤十字看護専門学
校で受けましたので、
日赤豊田看護大学の
学生さんの先輩とい
うことになります。

卒業後、名古屋第一赤十字病院のIC
U・CCUで5年、小児科病棟で5年
勤務しました。その後も日赤愛知短大、
本学で教員生活をしていますので生粋
の赤十字人と自負しています。

本学では、看護方法学の中の「看護
過程」と「看護情報学」を担当してい
ますが、その関連もあって、6年前か
ら名古屋市立大学大学院システム自然
科学研究科生体情報専攻で、「情報と
看護」について研究しています。

看護師は、患者の意思を尊重しなが
ら健康や安寧(Well-being)・QOL
(Quality of Life)の向上などを目的と
して患者のケアに向けた意思決定を行
っています。このためには看護師に対
象(患者)を全人的に捉え、系統的・
論理的に問題解決する能力が求められ
ます。この思考プロセスは看護過程
(Nursing Process)と呼ばれ、習得
するには対象の情報を量的・質的に判

断し全体論的に情報統合できる能力が
不可欠です。

私は現在、この看護過程と看護情報
学を基盤に「看護師教育へのITの導
入」について研究を重ねています。具
体的には、看護師がアセスメント過程
で、収集した対象の情報を分析・総合
化して患者の問題を全人的にとらえる
(当該患者にあった看護診断をする)こ
とを学習支援するアセスメント・シス
テムCASYSNUPL(Computer Assisted
System for Nursing Process Learning)
を開発し、これを実際に教育の場で実
践利用しています。このシステムの教
育導入での有効性について「全国大学
IT活用教育方法研究発表会」にて報
告したところ、「奨励賞」を受賞いた
しました。この受賞理由や、
CASYSNUPLの紹介については、
http://www.juce.jp/LINK/journal/0503/04_01.html および
<http://www.juce.jp/LINK/houhou/05jusho.htm#shourei> をご覧下さい。
また、本学以外のいくつかの教育機関
からも試用申し込みを受けております。
今後も、システム開発者不在の場での
使用にも混乱を生じない、より使いや
すいシス
テムに練
り上げて
いく所存
です。



「英国における 21世紀の看護」 Faculty Development

事業として
学部長 小西美智子

大学の教員はそれぞれ各自の専門領域について研究活動をしなが、その専門性を高めるために、研究会や学会に参加して意見交換しその能力を研鑽しています。一方大学は教育の場であることから学生が卒業時の到達目標にそって学習ができ、到達目標が達成できるように、教員は多様な教材を活用して講義、演習、実験・実習を教授することが求められています。この大学教員に課せられた学生を教授する能力を高めるために、教員個人の自己研鑽努力に加えて、大学として定期的に計画的にFaculty Development事業として、教員が諸外国や他大学における優れた教育方法や教授方法を学習し、または学生の学習環境の評価方法を学習し、検討する機会を設定することが大切です。そこで平成17年10月にFaculty Development事業として、英国のCity University LondonのRosamund Bryar教授に「英国における21世紀の看護」について講演を依頼しました。Bryar教授はCity University Londonの地域看護・プライマリケア領域の主任教授で、その領域には10名の教員と多数の大学院生や研究生がいるそうです。またBryar教授は国際

地域看護学会の理事であることから、東京で開催された第3回国際地域看護学会学術集会に出席するために来日され、その学術集会終了後に当大学に招聘し英国の看護について講演を依頼しました。

Bryar教授の講演はスライドを含めてすべて英語であり、逐次通訳で内容が紹介されました。その一部を紹介すると、英国における生活習慣病として、心疾患、脳卒中、がん、糖尿病、潜在している2型糖尿病、慢性閉塞性肺疾患、腎疾患があり、その結果全体的に人々の健康状態が悪化し、社会的サービスの提供が困難になり、家族や介護者の負担になっているようです。その原因としては、寝たきり、座りきり、運動不足、高脂肪食が挙げられ、これら生活習慣病について科学的な根拠に基づいて看護ケアを提供したいが、まだ介入の効果が明らかになっていないということでした。日本における生活習慣病とその対応への困難性が共通していると言えます。英国における看護教育は3年間の専門学校教育で免許を取るコースと学士課程で取るコースがあり、それぞれ卒業時に資格認定を行い看護師として登録されます。その後さらに大学院へ進学し、専門看護師、実践看護師、ナースコンサルタント等の資格を取得するようです。また英国



の看護職は10名に1名は男性であり、看護学生も25歳以上が半数を占めていると話されていました。看護職という仕事内容は同じでも国によって看護教育や看護制度は異なっています。

講演は大学の講堂で開催され、教員と学生さらに学外の看護職等多くの参加者があり、講演後には学生を含め参加者からの質問があり、英国の看護制度、看護教育制度、看護の役割および課題について学び、これからの日本の看護学について広い視点から考える機会になったと思います。また事前に看護学生が出席することを伝えてあったために、City University Londonの看護学生からメッセージがビデオ録画として伝えられましたが、いつか両大学の学生が看護学について話し合う機会があることを願っています。

タイの看護系大学教員との交流

高齢化に対する看護職の挑戦 —
日本の経験から学び、タイの実践へ活かす

講師 鈴木 千智

2005年9月26日
(月)〜29日(木)の4日間、タイの看護系大学の地域看護を専門とする教員4名が来校し、日本の保健・医療・看護の現状を視察した。



(写真1)

タイ国の高齢化率は現在8%ほどであるが、ここ数年で2倍になるという急激な上昇を示し、政府としてもこの事態に早急に対応しなければいけないという政策展開が始まったところであるという。従来、多くの保健医療福祉政策が医師主導で展開されてきたそうであるが、急速に近づいてくる高齢化社会に向け、看護職への期待も高く、この事態に対処するシステムを看護職がイニシアチブをとって構築することとなったそうである。その責任者であるカナタ・ナットバーム博士(Kohon Keen大学看護学部)が、そのプロジェクトチームメンバーである看護系大学地域看護学の教員3名(アリ・チャングトン博士(Srinakharindrarat Onkarak大学看護学部)、ブンヤラット・ラフォンワターナ博士(Mahidol大学看護学部)、チャネット・フオンフェット講師(Wataniak大学看護学部)と共に来校し、保健・医療・福祉が一体となって展

開されている日本のプライマリケアシステムとそのシステムの中で上級看護職が行っている活動、さらに、教育機関がそのシステムとどのような密接な関係を持っているかを学ぶ研修を受けることとなった。

村地学長を表敬訪問し、赤十字の理念に基づいた新設大学での看護教育についての懇談から研修がスタートした（写真1）。4日間という短い期間に、地域と病院との連携を結核を中心に展開している地域の中核病院、介護保険に関連して豊田市内の訪問看護ステーション、政令市である名古屋市の保健所における保健活動、豊田市内の健康増進や介護予防を目的とした事業などを精力的に視察された。小西美智子学部長とは、日本の現状をふまえ地域看護の目指す方向性や看護教育における教育・研究・実践の現状と今後の課題などについて実習施設との連携も含めてディスカッションを行なった。この研修を通して、日本のシステムだからこそ可能なことではなく、タイ国でも実践可能なヒントを多く学ぶことができたため、この学びを今後の発展につなげていきたい、そして、欧米諸国や日本の単なる模倣ではなく、タイ国独自の方法を模索していきたいとも話されていた。

来日された時期が夏季休暇の最後の時期にあたり、学生との交流の機会を設けることができなかったことが残念だったが、今後の本大学との友好的な関係を強く希望され、カニタ博士はその後に東京で開催された第3回国際地域看護学会へ、

他の3名は帰国の途についた。4日間行動を共にする中で、近い将来到来する高齢者社会に向け、看護職のできることを模索し、政策へコミットメントする道を切り開いているタイの方々のバイタリティから私達も多くの刺激を受けた。

タイの看護教育の歴史は古く、1896年に女王が看護助産学校を設立し、1921年には女王が資金を提供してタイの赤十字病院とバンコクに看護師養成所が設立されており、義務教育が始まった時期と同時期に看護教育が取り入れられている。1978年以降はすべての看護職の教育が大学教育に移行され、多くの大学に大学院があり、修士課程、博士課程で学ぶ学生も多く、欧米諸国などへの海外留学も奨励されている。高齢化に伴い、看護職への国民の期待は高く、医療・保健と看護を統一した教育を高く求めるようになってきているということである。

パキスタンにおける赤十字の地震被災者救援活動

講師 河合 利修

平成17年10月8日にパキスタン北部においてマグニチュード7・6の地震が発生し、死者数万人を出す大惨事となりました。日本赤十字社は地震被災者救援のために医療チームを派遣しました。主な派遣先は、アボタバードとカシミール地方のチナリという二ヶ所でしたが、アボタバードには赤十字が病院を設置し、日赤も含めた各国赤十字社の要員が国際チームを作って活動を行っており、私もこのアボタバードに管理要員として派遣さ

れました。

アボタバードの町はほとんど被災していませんでしたが、町にある総合病院に被災者が殺到するなどしたため、赤十字はこの総合病院を支援するために、病院敷地内に仮設テントを建て、地震が原因で怪我をしたり病気になった患者さんを受け入れることになりました。この赤十字の病院には外国人スタッフが約20人おり、半数以上が日赤から派遣された要員でした。私は医療要員ではありませんが、患者さんや現地の職員と接するにつけ、日赤医療要員の活動が高く評価されていることがよくわかりました。パキスタン人は一般的に非常に親日的な国民ですが、日赤医療要員の技術の高さや現地の人々への接し方に実際に関わってみて、現地の人々は日赤の医療要員の活動に感謝の念を表していました。

管理要員として派遣された私は、病院の事務の仕事をしていました。事務の仕事と言っても総務、会計、用度、人事と多岐に及んでいましたが、特に人事の仕事は私が主に関わったものであり、また興味深いものでした。現地職員は約百人おりましたが、職員を正式に雇用するために雇用契約を作る必要がありました。契約書自体はフォーマットが既に決まっております、必要事項をコンピュータで入力するだけなのですが、その過程で様々な経験をしました。例えば生年月日を記入する欄があるのですが、生年月日不詳の人が結構おり、だいたい年齢を聞いて生まれた年を逆算することも多々ありま

した。また、契約書に署名する段階になって、字が書けなくて署名できない人が現れ、そのようなときは拇印を押してもらいました。病院の事務の仕事を通して現地社会のあり方を垣間見ることができたことができ、よい経験となりました。そしてこのような活動を通じて、赤十字は救護団体であるということを改めて思いながら12月末に帰国の途に就きました。

最後に、赤十字は内外で救援活動を行っています、赤十字の看護師さんが参加することを期待します。関係の赤十字の研修会や訓練等に参加して登録されれば、国内外の救援活動に派遣される可能性は十分にあります。もともと卒業早々は技術的にも難しいと思いますので、卒業後何年かはじっくりと仕事をしながら看護の技術の習得に励んでください。時間はかかるかもしれませんが、結局それが一番近道になるでしょう。



契約について現地職員に説明する様子

平成18年度公開講座のお知らせ

ホームページ<http://www.rctoyota.ac.jp>の申込フォームからお申込みいただくか、氏名・住所・連絡先・参加希望講座を明記の上、日本赤十字豊田看護大学企画課まで葉書・FAXでお申込ください。

公開講座 1

「パワーアップからだもこころも生き生き健康」をメインテーマとして、一般の方を対象に下記のとおり開催します。お気軽にご参加ください。

講座名・担当	日時・場所	内 容	人数
心の病気 担当: 専門基礎領域	6月24日(土) 10:00~11:30 豊田市産業文化センター 4階大会議室	子供の心の発達とコミュニケーション	70名程度
あなたは大丈夫? 転倒予防 担当: 地域看護学	7月15日(土) 9:30~11:30 ヘルスプロモーションセンター (本学)	1) 転倒予防チェックリストによるセルフチェック 2) 測定: 血圧、握力、骨密度 3) 転倒予防の講話	50名程度 (60歳以上対象)

公開講座1の後期も計画しております。詳細は、本学のホームページをご参照ください。

公開講座 2

保健・医療・福祉専門職を対象に行う公開講座は、下記のとおり開催します。

講座名・担当	日時・場所	内 容	人数
地域で生活する障害児・者を支えるサービスの仕組み 担当: 小児看護学	6月3日(土) 9:30~12:00 本学もしくは豊田市内の公共施設を予定	・ 障害者自立支援法の解説 (地域生活支援に関する先駆的实践報告も含む)	60名程度

公開講座2の後期も計画しております。詳細は、本学のホームページをご参照ください。

平成18年度 入学志願者状況

推 薦 区 分	志 願 者	募 集 人 員
一般	463	55
高等学校長推薦	46	30
日本赤十字中部各県支部長推薦	29	30
社会人特別選抜	6	5
合 計	544	120

いとしぎの丘 Vol.3

発行日/2006年4月1日

編集・発行/日本赤十字豊田看護大学

広報・公開講座委員会、総務秘書課

〒471-8565 豊田市白山町七曲12-33

TEL 0565-36-5111 FAX 0565-37-8558

E-Mail info@rctoyota.ac.jp

H P <http://www.rctoyota.ac.jp>

平成17年度公開講座開催報告

一般の方を対象に「パワーアップからだもこころも生き生き健康」をテーマとした4講座に延べ197名、看護職の方を対象に「看護研究・業務を活かす情報検索・統計処理」をテーマとした3講座に延べ142名の受講者がありました。本学では、地域の方々の多様化・専門化する学習ニーズに応えるべく、大学と市民の交流の一環として、今後とも公開講座を開催しますのでご期待ください。

公開講座 1

講座名・担当	日時・場所	内 容	人数
腫瘍マーカー 担当: 専門基礎領域	9月17日(土) 9:30~11:30 大講義室2	がんを早期発見するために考えられた検査法を解説し、現状と今後の見通しについて紹介した。	61名
こころの健康を考えていますか? 担当: 精神看護学 専門基礎領域	10月15日(土) 9:30~11:30 大講義室2	講演「こころの健康を考える」 体験「ストレスチェック体験」	72名
健康と食生活 担当: 基礎看護学	11月5日(土) 9:30~11:30 セミナールーム A,B,C	・ 脂肪測定(肥満度) ・ 食事の糖分・塩分測定 ・ 栄養バランスチェック	31名
更年期の健康 担当: 母性看護学	12月10日(土) 9:30~11:30 セミナールーム A,B,C	更年期は急激にホルモンの分泌が減少するため、心身ともにさまざまな不調が起こりやすい時期です。更年期を正しく理解し、上手に乗り切っていくための方法を一緒に考え、健康体操を実施しました。	33名

公開講座 2

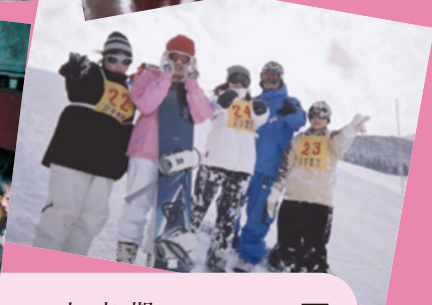
講座名・担当	日時・場所	内 容	人数
医中誌Web版、Webcatの利用法	10月15日(土) 9:30~11:30 LL教室	医学・看護文献データベース医中誌Web版の利用法及び蔵書情報データベースWeb catの利用法について解説しました。	23名
Microsoft Excelによるデータ集計	11月26日(土) 9:30~11:30 LL教室	Excelの数式・関数利用の初歩、並べ替え機能・オートフィルタ機能、ピボットテーブル、グラフ作成機能の初歩を学びました。	52名
看護研究に活かす統計解析の基礎	12月10日(土) 9:30~11:30 LL教室	統計的推定・統計的検定の基礎を学び、なぜ看護研究に検定や推定が必要なのか、有意差とは何か、データの種類と利用可能な検定方法との関係について理解を深めていただきました。	67名

公開講座2は専門基礎領域が担当しました。



公開講座の様子(腫瘍マーカー)

短大特集



日本赤十字愛知短期大学

時代の思い出

教授 羽場 俊秀

平成一八年三月三十一日で、日本赤十字愛知短期大学（以下短大とする）は閉校となるので、一文を寄せてほしいとの連絡が平成十七年十二月二十六日にあった。

私は短大の創設時からの教員であり、閉校にあわせて退職したので、短大での在職期間は一七年ということになる。

今からふりかえってみると、いろいろなことが思い出され、すべてをここに記載するのは不可能なので、思いつくままに記したい。そのため、内容としてはやや私的なことになるかもしれないが、あしからず。

短大が誕生したのは、平成一年四月一日のことであった。それまで、私は佐賀県内の女子短大に勤務していて、看護系の短大での勤務は初めてのことであった。

設立時の短大は、名古屋第一赤十字病院に付設していた名古屋赤十字看護専門学校の三階を改築して、スタートした。一、二階は名古屋赤十字看護専門学校が使用していたので、階段を下りると時折、専門学校の生徒を見かけることがあった。二年間はこのような状態が続き、平成三年四月からは短大の生徒だけとなった。

平成一年四月一日の創設の際の教員数は、学長、学科長（当時は教務部長と呼ばれていた）を除くと、講師以上の単位認定者は七人であった。内訳は、専門教育が四人、一般教育が三人であり、一般教育は人文、社会、自然科学からそれぞれ一名配置されていた。事務職員は五人であった。

男性教員は、学長を除くとわずか三人で私以外は六十歳代の二人であった。そのため、この二人の先生が退職されたあと、男性教員は私一人であったこともあり、若い男性教員（助手）が入って

きて、ほっとした。

短大の創設時のメンバーは、個性派揃いであった。それほど広いとは思えない研究室でのティータイムの時などは、「我々は、七人の侍ですね。これだけのメンバーを集めようと思ってもなかなか難しいですが、何かの縁ですね。学生数（定員五十名）から考えると、ミニどころかミニミニスクールだけど、志だけどこにも負けないように、前進しましょう」と語りあったことがある。

それぞれ、関心や得意とする分野は違っていたが、「名前は、短期大学であるが、目指すところはあくまでも大学」という点で一致していた。時には「看板だけが、短大で中身は専門学校」という面があったので、専門学校との違いを極力鮮明にしようとした熱意が見られていた。

たとえば、短大のカリキュラム等は、当時赤十字学園で唯一の大学であった日本赤十字看護大学をモデルにし、ある時などは、「生活科学」、「生命科学」という文言をめぐる、看護系の先生を含め議論がかわされ、一段落がついた時は、外は真っ暗であったこともある。

また四大化への足がかりといえる短大の定員増および専攻科の設置の際には、「本学は日本赤十字学園の傘下の短大であるから、まわり道かもしれないが、まず学園本部に相談をし、一歩一歩進めていこう」という方針が打ち出され、私も関わることができ、今ではなつかしい思い出となっている。

この一七年間、多くの教員や職員の方々には本当にお世話になりました。中には不愉快な思いをされた方々もいらっしやることと思います。改めておわび申し上げます。

最後になりましたが、日本赤十字豊田看護大学が、四年制大学として名実共にますます発展されることをお祈りいたします。

（なお、それぞれのところで関わった人々の名前を割愛したことをご了承ください）

専攻科修了を迎えて

専攻科第8期生 板倉 佳里

日赤短大専攻科8回生が修了を迎えた。専攻科としては最後の卒業生である。振り返るとこの一年は、日々の授業に実習、研究論文、加えて就職活動と常に忙しい毎日を送っていたように思う。しかしこれらの日々はとても充実しており、楽しい毎日であった。



地域看護学専攻として一年間地域看護にどっぷり染まり保健師の学習を深めた。専攻科は看護学科の時とは違い、対象を地域全体に広げた学習をして行くのだが、入学当初はこれらの違いが全く理解できずに悪戦苦闘していた。「保健師とは何か？」と常に存在していたこの疑問の答えに近づいたきっかけに臨地実習がある。すべての学生が健康教育を担当し、試行錯誤を繰り返す中で「住民視点の視野、地域全体を視る幅広い視野の両方を持ち、地域のニーズを把握する」という保健師を肌で感じた。また、研究論文では、先が見えず時には投げ出したくなる時もあったが、先生方や共に頑張っている友人に助けられながら、納得の行く論文を書き上げることができた。みんなの前で発表を終えたあの時の達成感は今でも鮮明に覚えている。この一年間、日々何かに追われているような忙しさを感じながらも、その一つ一つは確実に私の中に染み込み、日々自己の看護観が広がって行く事

がいつの間にか楽しくなっていた。これは私に限った事ではない。現に多くの学生の口から「専攻科に来てよかった」という言葉を聞いている。修了を迎えた今では、私たち学生43人皆が自分なりの保健師像を築き上げることができているだろう。

また、自己の振り返りができたよい一年にもなった。グループワークでの意見交換、就職試験の際など、幾度となく自分を客観的に見つめることは難しく、これほどまでに自分と向き合えた年はない。特に負けず嫌いの私は、誰にも負けたくないという周りを気にせず、ただがむしやらに突き進んでしまうのだが、それは時には周囲を傷つけていることに気がついた。そして、それにもかかわらず、常に隣にいてくれる友人の存在に気がついた。「独り善がりにならず、他者の意見にも耳を傾け皆で同調して一つの目標に向かって協力すること。」医療者としてのみではなく、人として、これから就職を控えている社会人として重要なことに気付かせてもらった。これに気づかせてもらった友人に心から感謝している。

私たちは修了を迎える。これまではいつも共に歩んできた仲間であったが、これから先進む道は43人それぞれ違う。専攻科も閉校を迎えるが、この学び舎で1年間学んだ事はいつまでも私たちの中で生き続けるだろう。これから先も、それぞれの新天地でここでの学びをいかした医療従事者になれるよう精進していきたいと思う。



看護学科卒業を迎えて

看護学科第15期生 高瀬 紀子

日本赤十字愛知短大の閉校にあたり、振り返れば私たちは最後の短大生として入学し、一年間を中村区の校舎で過ごして勉強しました。旧校舎が取り壊されてゆく姿には寂しさを覚えました。今度は短期大学の名前までなくなってしまうわけですから、複雑な気持ちがいまわっています。しかし短期大学から大学教育へと発展し、大学生の皆様にはより充実したカリキュラムと施設で、一層勉学に励んで、看護師としての技術と心を磨いてもらえればと思います。



私がこの日本赤十字愛知短大で得たかけがえのないもの。それは同じ夢に向って、勉強し、悩みを共有して支え合った友達です。

特に印象に残っているのは、三年次の五カ月間の実習です。実習では患者さんの話を耳を傾け、日常生活の援助をし、患者さんの変化がいち早く発見できるように常に観察を続ける仕事には、やりがいを感じました。しかし一方で、どのように患者さんに接すればいいのか迷い、思い通りに行かない自分の技術の未熟さにいら立ち、悔し涙を流したこともあり、また「もうやめたい」と思う時期さえありました。

そんな私を支えてくれたのは、グループの仲間です。私が悩み事を打ち明けられ「そうだよね」と共感してくれたり、親身になって話を聞いてくれたり。お互いに情報を交換し、刺激しあうことで自己を高めることができたと思います。

仲間は私にとって、本当にかげがえのない友達です。この先、看護師としていろいろな困難にぶつかることがあると思いますが、そんなときは仲間の顔を思い出して、へこたれずに頑張りたい。いや頑張れる、そんな気がします。

この短期大学は、アドバイザー制度もあり、先生方と私たち生徒との関わりが多く、先生方との距離をより身近に感じながら、学校生活を送ることができました。特に実習では、何でも相談できる頼もしい存在であり、患者さんと接する姿には学校では見られない先生の一面に、同じ看護者の先輩としての憧れを感じました。

このように、三年間の学校生活を振り返ってみると、私は本当に多くの人に支えられて、ここまで自分の看護師になるという夢を貫く事ができたのだと、改めて感じました。この短期大学で学んだ多くのことを胸に、看護師としての第一歩を歩んで生きたいと思っています。

最後に、教員の先生方へ、三年間の熱心なご指導ありがとうございました。

